

公立学校共済組合近畿中央病院 健康管理センター長・内分泌内科部長 さいとう ひろし 斎藤 博

「ホルモン」とは体の中で情報を伝達し、多くの細胞がひとつの個体（人間）として、調和のとれた良好な状態が保てるようになんばっていている物質です。たくさんのホルモンがありますが、中でも「甲状腺ホルモン」は、成長や発達に欠かせない大切なホルモンです。

甲状腺の異常をきたした方の**8割が女性**で、そのライフサイクルの各ステージでいろいろな影響が現れます。



1) いろいろな原因で**月経不順**をきたすことがあります。甲状腺機能の異常から、卵巣の機能に影響がでてきている場合があります。



2) 甲状腺機能の異常は、**不妊や流産**の原因になることがありますし、また、妊娠中のホルモン不足は、**赤ちゃんの発育**、特に神経の成長に障害を及ぼす場合があります。妊娠して婦人科を受診した時には、最初の採血でホルモンチェックが行われますが、週数が経っている場合もありますので、事前にチェックされたほうがより安全です。



3) 出産後に起こる「**出産後甲状腺機能異常症**」という病態があります。出産後に疲労感や動悸、イライラなどの症状が出現し、「**産後の肥立ちが悪い**」「**育児ノイローゼ**」と思われる方のなかに紛れ込んでいます。



4) 50才前後になると、**動悸や肩こり、憂うつ**などの症状が現れ、更年期障害かな？と思われることがあるかと思いますが、これらの症状は甲状腺異常のときの症状によく似ていますので、甲状腺の病気が潜んでいるのかも知れません。

5) 女性に限らず、**男性でも**熟年にさしかかると、**元気がなくなったり**、頭の回転が鈍くなったり、皮膚や髪の毛に**つやがなくなったりする**ことがあります。甲状腺ホルモンの不足で同様の状態になることがありますので、加齢のせいと決め付けるのは早すぎかもしれません。



気になることがあれば、一度はドックや検診などで**甲状腺ホルモン**の採血検査を受けられてはいかがでしょうか。